

日光市の文化財 ③

小倉山のモミ

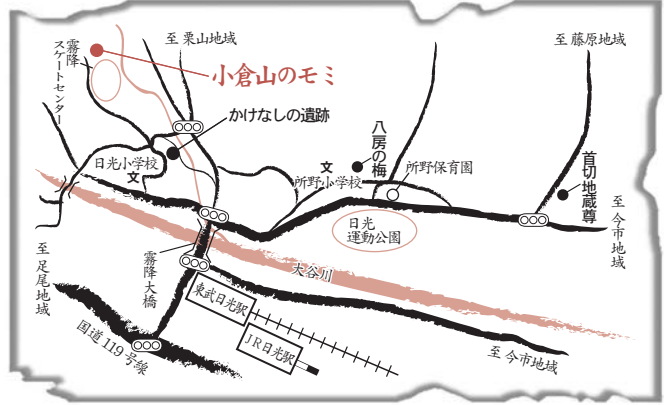


【種別】天然記念物
【所在】日光市所野
平成15年7月23日旧日光市指定

日光霧降アイスアリーナ北側の駐車場付近にそびえ立つ小倉山のモミは、高さ約30m、幹回り約五・三mの巨大な木で、樹齢は約三五〇年と推定されています。県内で行われた一九九一年の巨樹巨木林調査によれば、この樹木を超える大きさのモミはなく、その堂々とした姿は見る人に感銘を与えます。神橋近くの太郎杉にも劣らない風格の巨大な木であることから「太郎モミ」とも呼ばれています。

小倉山周辺の国有林にはモミを含む森林が現在でも残っています。以前は各地で見られたモミ林も、戦後の伐採によってその多くは姿を消してしまいました。小倉山のモミの周辺は広場となっており、ここで訪れ、かつて広がっていたモミ林をぜひ想像してみてください。

なお、このモミは、二〇〇〇年に林野庁が主催した「森の巨人たち一〇〇選」にも選ばれています。



このコーナーでは、市で所有する絵画を紹介いたします。

GALLERY ⑦ 「東照宮・陽明門と参拝客」



河久保正名作 制作年不詳 紙・水彩 64・4cm×48・4cm
小杉放菴記念日光美術館所蔵

河久保正名は、その出自や生没年も謎に包まれた画家です。洋画家国沢新九郎の弟子だったといわれており、陶芸家板谷波山は少年時代の1880年代に河久保の画塾に通っています。

明治美術会や1900年のパリ万国博覧会へ出品し、翌年には巴会の結成に参加しました。これらから洋画の先駆者として活躍していたことがうかがわれ、唯一現存する油彩画「鈴木重嶺像」が昭和女子大学に残されています。

また、洋画家石井柏亭の著書「柏亭自伝」には、柏亭が大蔵省印刷局に勤めていた1890年代のころ、同僚に河久保がおり、影響を受けたとの記述があります。さらに柏亭は貴重な証言を残しています。間もなく印刷局を辞めた河久保は、やがて日光に転居して、陽明門や神橋などを題材に、外国人のお土産向けの水彩画を描いて晩年を送ったといわれています。

今回紹介する作品は、まさにその時代に河久保が描いた作品と思われるものです。河久保はそのまま日光で没したのでしょうか。河久保に関する謎はまだ尽きません。

市民文芸

川柳 選者 山本都留米

さりげなく笑ってごまする老の知恵 岩崎松風
泣いたなら我慢の鍵が開きそう 櫻沢あき子
マニフェスト光と陰が交叉する 篠原香風
足し算を忘れて久し年金族 塚原トモエ
逃げ道を作って叱る味な人 芳野起代子
怒らずに論す笑顔が花に見える 大堀 満
三遍も回わって禁煙場所ばかり 選者 吟

俳句 選者 伊藤 清

黄ばみゆく田園遥か秋落暁 斎藤愛華
里山の独り道草栗拾ふ 渡辺ミチ子
句を拾ふ毬栗まるぶ山路来て 斎藤てつ
新涼や椅子に凭れる老夫婦 池田三夫
鏝戸を静かに閉ざす虫時雨 佐藤知明
蓮の実の飛ぶ音かすか浄土めく 鈴木キヌ子
膝頭そろへて足湯秋うらら 星野恒志

名補佐役と政権

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」の書き出しで始まる「平家物語」。教科書にも載っており、平清盛を中心とする平氏一門の興亡を描いた作品として有名です。

保元の乱、平治の乱に勝利し、太政大臣にまで上りつめて栄華を極めた清盛ですが、後白河法皇の幽閉をきっかけに源氏が挙兵し、清盛も死亡し、平氏は最後に壇ノ浦で滅亡してしまいました。

その約40年後にも天下を統一した人物がいました。それが、豊臣秀吉ですが、平氏と同様、短命政権に終わりました。

豊臣秀吉を描いた作品としては「太閤記」が有名です。織田信長に家臣として仕えて数々の戦いで功績を上げ、信長の死後には関白になり、ついには天下統一を果たした秀吉。しかし、秀吉の死後、関ヶ原の戦いと大



坂冬の陣・夏の陣を経て、豊臣家は滅亡に至りました。

ところで、2つの政権には共通点があります。それは、繁栄から衰退に向かう分岐点で名補佐役が亡くなっていることです。その名補佐役が平重盛と豊臣秀長です。平重盛は、清盛の息子で、教養豊かで穏やかな人柄でしたが、父清盛の行き過ぎた行いを強く諫めて中止させ、平氏第一の人物といわれていました。

また、豊臣秀長は、兄秀吉を支えた聡明な弟で、その温和人柄は、誰からも信頼されていました。秀長が生きていれば、その後の悲劇はなかったのではないかとされています。

秋の夜長に「平家物語」や「太閤記」などの歴史物を読んでみてはいかがでしょうか。新しい発見があるかもしれませんよ。

短歌 選者 阿久津伸一

われもこうくじやく草にそい秋をよび診さつ待つ間のわれをなぐさむ 大出喜代
独り身の生活を工夫し日を過ごす八十路の思い出ノートに記して 金田満寿子
ともかくも有り難きかな還暦を過ぎて介護の母の在わすは 関根眞佐子
籠りいる部屋に迷い来長居する幼きとんぼに声をかけける 高野恒子
楮さらす女は黙してひたすらにふき舟操作し和紙製造す 狐塚昭子
握り合う手に言葉なく熱きものかたみに伝わる八十路のわれら 北崎 君
秋晴れて光る稲穂に誘なわれ軽トラックを整備し待つも 湯沢登久栄

作品を募集しています!

川柳・俳句・短歌のを募集しています。氏名(ふりがな)、住所、電話番号を明記して、ご応募ください。

応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎(21)5135・FAX(21)5109